



# 夏の素謡と

# 仕舞の会

言葉の響きの美しさ——。

素謡 能の台本を謡い語る

仕舞 能の一部を紋付袴姿で舞う

賀か

安あ

茂も

宅たか

分林 道治

井上 裕久

勸進帳 Ataka Kanjincho

鸚鵡小町 Oumukomachi

観世 清和

藤戸 Fujito

大江又三郎

SU-UTAI & SHIMAI  
2021 SUMMER,  
KYOTO KANZE NOHPLAY THEATRE

令和3年 7月11日(日)

午前11時開演 (10時30分開場)

会場 京都観世会館

京都市左京区岡崎円勝寺町44

入場料

一般前売 4,500円

一般当日 5,000円

学 生 2,500円

全席自由席

チケットのお申込みは、  
お電話またはホームページにて承ります。

# 夏の素謡と仕舞の会

令和三年七月十一日(日)  
午前十一時開演(十時三十分開場)

## 賀茂

ツレ 梅田 嘉宏  
河村 紀仁

分林 道治

浦部 幸裕

河村 紀仁

梅田 嘉宏

樹下 千慧

河村 和晃

片山 伸吾

分林 道治

浦部 幸裕

浦部 幸裕

幸裕

(仕舞)

道明寺 味方 玄  
生田敦盛 キリ 大江 信行  
三輪 鷺尾世志子  
班女 アト 橋本 忠樹  
鶴之段 河村 和重

(地謡)

谷 弘之助  
浅井 通昭  
古橋 正邦  
田茂井 廣道

(地謡)

谷 弘之助  
浅井 通昭  
古橋 正邦  
田茂井 廣道

## 安宅

子方 吉田 学史  
ツレ 寺澤 拓海  
河村浩太郎  
河村 和貴  
井上 裕久

杉浦 豊彦

寺澤 拓海

河村 和貴

河村浩太郎

吉田 篤史

橋本 光史

井上 裕久

杉浦 豊彦

浦田 保親

(仕舞)

逆 田茂井 廣道  
松風 河村 晴久  
鳥追舟 武田 邦弘  
天鼓 大江 広祐

(地謡)

河村 紀仁  
越賀 隆之  
橋本 隆三郎  
松野 浩行

(地謡)

河村 紀仁  
越賀 隆之  
橋本 隆三郎  
松野 浩行

## 鸚鵡小町

観世 清和

片山九郎右衛門

(地謡)

大江 泰正  
橋本 忠樹  
深野 貴彦  
味方 團

林 宗一郎

観世 清和  
片山九郎右衛門  
味方 玄

休憩二十分

## 藤戸

大江又三郎

橋本 雅夫

ワキツレ 浦田 親良

(仕舞)

女郎花 片山 伸吾  
江口 キリ 吉田 潔司  
阿漕 吉浪 壽晃  
山姥 キリ 松野 浩行

(地謡)

寺澤 拓海  
河村 博重  
青木 道喜  
河村 和晃

(地謡)

谷 弘之助  
大江 広祐  
浦田 親良  
宮本 茂樹

大江 信行

大江又三郎  
橋本 雅夫  
河村 晴道

附祝言

(終了予定 四時前)

主催 公益社団法人 京都観世会

※時間はおよその目安です。

### 賀茂

初夏の京都が舞台。播磨國の室の明神に仕える神職が、室と一體であるという賀茂明神へ参詣します。神職は川辺に新しく祭壇が築かれ、白木綿に白羽の矢が立ててあるのを不思議に思い、ちようどそこへ現れた水汲みの女性二人に訳を尋ねると、「この御矢は当社のお神体とも御神物とも崇め申しているもの」と答えます。ある時、流れてきた白羽の矢を持ち帰り家の軒先に挿すと、知らぬうちに子を授かり男子を産み、矢は天に上り鳴神に、この子は別雷神に、その母君も神となったのだと、賀茂三社の縁起を語ります。女は洛中洛外の川の名所を挙げてつづつ水汲み神に手向け、やがて自分は神であると言いき神隠れします。やがて女体の御祖神について別雷神が出現し、雷鳴をとどろかせ国土を守護する神威を示すのでした。

### 安宅

観世小次郎信光作。平家討伐の功により都を守護していた源義経は、兄頼朝と不和になり、都を落ち、奥州藤原氏を頼って逃走しています。主従十余人は山伏姿に身をやつし、安宅(現石川原)の関へ。一行は、義経を剛力(荷持ち)の人夫に仕立て、東大寺再興の勸進の山伏と偽って通過しようとするが、関守富樫何某が許しません。即身即仏の山伏を討ては熊野権現の天罰が下ると言って一行が数珠を採むと、関守は畏れ、「勸進帳」を読めと言います。弁慶が即興で巻物を読み上げ一行は通されますが、今度は強力が止められます。再び弁慶の機転によって一行は通過しますが、関を離れて安堵しているところへ、先の非礼を詫言するため関守が一行に追いつき酒盛りとなります。弁慶は飯山で手習った延年で応え、早々に奥州へ急ぐのでした。

### 鸚鵡小町

近江國(現大津市)が舞台。和歌の道を愛する時の帝、陽成院は、歌を選び集めようと思立ちますがなかなか名歌が集まりません。そこで、かつて並べなき和歌の能手であった小野小町のほとへ美大納言行家を向かわせませ。芙蓉、蓮の花にたとえられるほど美しくかつ小町ですが、今は貧しい暮らしたる老女。目は霞んで文字も定かに見えず、帝が行家に託した和歌を行家が読んで聞かせます。一雲の上はあり昔に変わらねど、見し玉簾の内やゆかし小町。宮廷は今も恋しいかと尋ねる歌、歌を詠む気力も失せていた小町でしたが、鸚鵡返しに古法で返歌し、行家に歌の道語りませ。そして往時の栄華を懐かしみ、かつて見た在原業平の舞い姿を追憶し、懐旧の舞を舞います。やがて日暮れとともに帰つてゆく行家を見送ると、小町は杖にすがりつつ庵に帰るのでした。

### 藤戸

源平合戦の藤戸の合戦にて、馬で海を渡り先陣の大手柄をたて、恩賞として備前岡山山奥の児島を賜った源頼朝の家臣、佐々木盛綱。意気揚々と新領主として赴いた盛綱の前に年たけた女が現れ、罪もない息子を盛綱に殺されたことと恨みを述べます。最初は語気荒く否定した盛綱でしたが、大手柄の陰には、昨年三月、土地の漁師に藤戸の浅瀬について教わったことがあり、口封じの為、その漁師を刀で刺しそのまま海へ沈めたことを打ち明け、その場所を示します。息子の最後の様子に泣き崩れわが子を返せと激しく迫る老母に、盛綱は非を悔い、男の供養を約束します。その夜、盛綱自身も誤殺すると漁師の亡霊が水上に現れ、我が身を不運を嘆き、殺されたときの苦痛を述べ、藤戸の水底の悪鬼となつて祟りをするぞと脅かされたが、思いがけない甲斐を受けて成仏の身となつたと告げるのでした。

### 素謡とは

能の台本(謡本)を、舞台上で謡う演奏形式です。謡うことと語ることで情景や心情を表現します。能には「源氏物語」や「平家物語」などの古典を題材にした名作が多く伝わり、おり、詞(詞章)の美しさは高い評価を得ています。素謡は、その「謡うこと、語ること」のみのシンプルな表現の面白さから、大正の頃より大変な流行となりました。また、京都には歴史的に「京観世」とよばれる「素謡」の文化があります。江戸初期寛文の時代、服部宗巴(九世観世大夫黒雪の弟、服部権元)の息のちに福王盛親が、西陣にあったといわれる観世屋敷で謡の教授をしたのが始まりです。以後、京都では能だけでなく、人々が謡だけをたしなむ「素謡」というジャンルが好まれ、連綿と受け継がれてきました。戦前は、京の辻々で謡の音がよく聞かれたためです。情緒豊かな「素謡」をライブでじっくりと聴いてみてください。

### 仕舞とは

能の一部(見せどころ)を、紋付袴姿で、謡にあわせて舞う演奏形式です。ほとんどの曲は扇を持ちますが、演目によっては長刀や杖などを持つものもありませ。舞い手の骨格が見えやすいため、能のデッサンと評され、演者の個性と技を楽しめます。数分の演技で能の醍醐味が味わえるのが仕舞です。

## 夏の素謡と仕舞の会

日時 令和3年7月11日(日) 午前11時開演(10時30分開場)  
会場 京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町44  
入場料 一般前売 4,500円 一般当日 5,000円 学生 2,500円

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、館内では必ず「マスク着用」をお願いします。  
※体調が優れない場合は、ご来館前に医療機関にご相談願います。  
※見所内での写真撮影・録音・録画にご遠慮ください。  
※携帯電話の着信音・時計のアラーム音が鳴らないよう、あらかじめ電源をお切りください。  
※都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。  
※お車の方は、会館東隣りの駐車場、または岡崎公園市営駐車場をご利用ください。



### 【交通アクセス】

#### JR京都駅から

- 地下鉄丸太線「国際会館ゆき」乗車「烏丸御池駅」にて地下鉄東西線「六地藏ゆき」「浜大津ゆき」に乗り換え、「東山駅」下車、①番出口より徒歩約5分
- 京都駅前バスのりばD1より市バス100系統、A1より5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車(乗車時間約30分)

#### 四条河原町から

- バスのりばGより市バス46系統、Eより31・201・203系統「東山仁王門」下車(乗車時間約15分)

#### 京阪三条駅から

- 市バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
- 地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車